

日本語学ぶ学生と語る

地域成長へ人材も豊富

犬飼 ひかる (経済3)

新疆は中国の西北部に位置し、タクラマカン砂漠、タリム盆地といった雄大な自然が広がる。新疆を知らずして中国の広さはわからない」と言われるほど広大で、エネルギーが、回族などほかのさまざまな民族も暮らしている。多民族が共生する異国の地で、私たちは多くの人と出会った。15日間、毎日共に歩き、包み隠さず等身大の中国を教えずくれたガイドとドライバー。バザールで私たち日本人に商品を売ろうとする

取る目標を持って学業に励んでいる人もいた。彼らとは今もなおメールで連絡をとりあい、勤勉な彼らから刺激を受けている。新疆が持つ可能性はエネルギー資源の面、人材の面から見てかなり大きいだろう。今はまだ北京や上海などの大都市との経済的格差は大きいだろうが、これからの新疆ウイグル自治区の成長に期待したい。

シルクロードを歩く

佐竹ゼミ

新疆ウイグル訪問記

寄稿



▲ スパシ古城で(左から芝宮さん、佐竹教授、犬飼さん)

佐竹弘靖ゼミ(教養ゼミ)のテーマは「シルクロードの人々」。シルクロードに関連する国や地域に生活する人々の文化、宗教、思想、民族性などを理解するために調査、研究を行っている。前年度はモンゴルやカザフスタンなどに接する中国西北部、新疆ウイグル自治区に地域を絞り、2月28日から3月13日



▲ 新疆大生、新疆農大生との交流会

点在する「貴重な遺跡」 急速な近代化、保存急げ

芝宮 成美 (経済3)

私たちが佐竹ゼミは「シルクロードを歩く」をテーマに、各自が興味を持つ国や地域についてプレゼンテーションをし、1年間の授業の中で中国西部にある新疆ウイグル自治区に的をしぼって文化や風土を調べてきた。その最終課題として、2月28日から15日間、フィールドワークのため現地を訪れた。私たちはタクラマカン

ほかに地面を掘り下げて町を切り出して築いた交河古城や唐の時代の僧侶が修行していた洞窟のあるキシル千仏洞など貴重な遺跡を見ることができた。しかし、それらの遺跡は政府による保存活動がほとんどできていない。風化が激しく、20年後には完全になくなってしまうといわれているものもある。また宗教上の争いにより破壊され

江戸文化が面白い

国際交流センター「春期日本語プログラム」受講のマリーナさん



参加者のひとりウクライナのマリーナ・トレチヤクさん。写真に話を聞いた。

国際交流協定校などの学生が本学国際交流センターで日本語や日本の文化を学ぶ春期日本語・日仕事をするウクライナ日本センターで日本語を勉強しています。「日本語の力をもっとつけたい」と専攻の春期

居ながらにして留学気分

国際研修館に4人のレジデント・アシスタント

生田キャンパス近くの国際研修館には、さまざまな国から来日した留学生が滞在する。その留学生たちの生活が快適で有意義なものになるよう支援しているのがレジデント・アシスタント(RA)だ。同研修館には現在、学生4人がRAとして常駐、留学生の



▲ 留学生と一緒に。前列左から小山内、1人おいて小野、三川、姥のRAのみなさん=国際研修館で

米ネブラスカ、オレゴン両大に7人

08年度長期交換留学生



▲ 大林国際交流センター長を囲んで長期交換留学生に決まったみなさん

- 米オレゴン大学
里菜(文 3)
北島(//)
村野(//)
菊池(//)
- 米ネブラスカ大学
リンカーン校(経済 3)
智也(経営 3)
真也(商 4)
藤田(//)
池田(//)
渡邊(//)

バルセロナ大アンジェルス客員教授が講演

やさしい英語による経営学講座



▲ 講演するアンジェルス客員教授

第135回国際交流特別講演会「やさしい英語による経営学講座」(5回シリーズ)は6月7日で終了。毎回50人前後の参加者があって好評だった。EUがテーマの今回の講師はスペイン・バルセロナ大学のアンジェルス・ペレグリン・ソレ経済学教授(専修大学経営学部客員教授)。

国際交流センターからのお知らせ

- ◆文学テーマに5回シリーズで「やさしい英語によるアイルランド文学講座」(5回シリーズ)が6月14日から毎週土曜日に開催される(5回シリーズ)。随時参加できる。▽日時①6月14日②同日③7月5日④同日⑤同日。いずれも10時~11時30分
- ▽講師①アイルランド・ダブリン大学ユニバーシティカレッジのキャサリン・オドネル氏(専修大学経済学
- ◆国際交流センターからのお知らせ
第23回留学生と日本人学生の交流ボウリング大会を開催。参加は80人まで(留学生先着50人、日本人学生先着30人)。
▽日時①6月26日(木)、17時開会
▽場所①ビッグボウル(向ヶ丘遊園駅南口 中和ビル)

※いずれも問い合わせ、申し込みは国際交流事務課へ。